

自己評価表（令和元年度）

愛媛県立川之江高等学校（全日制）

学校番号

1

教育方針	(1) 豊かな知性と創造性、果敢な積極性を育てる。 (2) 自他を敬愛する人権尊重の精神と誠実な人間性を育てる。 (3) 豊かな情操と感性、たくましい体力を育てる。 (4) 国際的な視野に立ち、変化に対応できる柔軟性を育てる。 (5) 地域社会に貢献する意欲と実践力を育てる。	重点目標	豊かな人間性を持ち、積極果敢な精神と自己開拓力に満ちた生徒の育成 ー高き理想の実現に向けた確かな知力、応用力、実践力の育成ー
------	--	------	---

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
学びの力・進路の実現力	<u>主体的に学ぶ意欲と喜びを享受できる授業実践を目指す。</u>	<u>分かる授業（80％）の実践</u> <u>授業公開・研究授業・相互授業参観等による研修を行い、授業力・教師力の向上を図る。</u>	B	生徒による授業評価では分かりやすさ等について全教科とも高い評価を受けた。併せて、個別指導を行うことで授業内容の定着に努めた。 授業公開・研究授業については年度当初の計画どおりに実施することができた。ただし、11月の相互授業参観週間における授業参観率（評価表提出者）は73.9％程度にとどまっている。 県教委主催の授業改善推進事業における研究授業の参観等には積極的に参加している。	教員が各自で、または教科会や各種研修を通じて指導法や教材を開発・工夫し、よく分かる・より楽しい授業の実践に努める。 相互授業参観週間における授業参観を積極的に呼びかけ、授業参観率（評価表提出者）100％を達成する。
	学習習慣の確立	週当たり1年20時間・2年25時間・3年30時間	D	1学期は6月、2学期は11月に月間家庭学習時間調査を行い、過年度	教科会・学年会を活用して、生徒の学習状況等について教員間の共通理解を図る。課題を踏まえて、生徒が自

				と比較・検討した。11月は第1学年の16.9%（昨年度21.3%）、第2学年の9.2%（同27.7%）、第3学年の25.2%（同23.6%）の生徒が目標を達成したが、家庭学習時間の極端に少ない生徒も少なからずおり、今後の課題となっている。	主に学習できる環境整備や指導方法、課題の与え方等を検討する。また、生徒に将来の夢や進路希望をよく考えさせ、学習する目的や意義を明確にさせることで学習意欲の喚起を図る。 また、目標を類型・コース別に設定することを検討したい。
	<u>より深い学びをして、確かな学力の修得と進路実現を目指す。</u>	<u>進学率・就職率100%、国公立大学合格者50名以上</u>	D	国公立大学27名 就職率100%達成	新入試に対応した授業改善を進め、学びの質を変えていくことが、大学合格者を増やすためには重要である。また、次年度は入試内容、結果ともに予想できない部分も多いため、校内外の活動を生かした総合型選抜や学校推薦選抜への出願を増やしていくことが、国公立大学合格者を増やすために必要であると考えられる。
一人一人の力	<u>個性と能力を生しながら、心身の鍛練を目指す。</u>	部活動加入率75%以上、	A	全体で82.4%（男子82.3%、女子82.5%）	昨年は78%で目標は、達成したものの反省すべき点が多々あった。今年度は、その反省を踏まえ各部が工夫ある取組を行い、退部する部員も減少し、魅力ある活動ができたのではないかとと思われる。
		<u>全国大会出場部：3部以上</u>	C	2部（陸上競技部2名、バトン部）	昨年の3部を下回ったが、生徒一人ひとりが、目標を高く掲げて取り組んでいる姿が多く部で見られた。次年度は、全国大会常連の部や、急激に成長している部があるので、今の成績に納得することなく、大きな目標を達成するべく努力してもらいたい。

		県高校総合体育大会出場 150 名以上	A	189 名の参加である。	近年では最高の人数で参加することができた。全国大会、四国大会、県ベスト 8 の種目も多数出て、一応の成果が出た。
		県高校総合文化祭出場 80 名以上	C	56 名の参加である。	生徒数減と、本年度は体育局の部員数が文化局の部員数を大きく上回ったため、目標を達成することができなかった。少数ではあるが、各部工夫した活動をしており、成績においても健闘した。
	<u>地域に生き、地域を愛し、地域とともに歩む心の育成を目指します。</u>	<u>ボランティア活動への参加：年間 1 人 2 件以上</u>	D	一人当たり 0.86 件である。	ボランティア活動への参加について、さらに生徒の意識を高めていきたい。
		<u>地域行事への参加：年間 1 人 2 件以上</u>	D	一人当たり 0.86 件である。	地域行事への参加について、ボランティア活動への参加との区別が難しく同様の数値とした。数値の把握方法等について今後、検討していきたい。
道徳的実践力・地域貢献度	<u>自他の生命と人権を尊重する態度を育てる教育の推進</u>	<u>いじめ問題発生件数：年間 0 件</u>	C	1 件発生した。いじめの認知に積極的に取り組み、小さな問題も見逃さないことで未然に防ぐことができた。	いじめ認知を積極的に行い、生徒の小さな変化も見逃すことなく、安心安全な学校づくりを行う。相手を思いやる心と感謝の気持ちを養い、人権意識の高揚に努める。
		<u>異校種間・異世代間交流学习：年間 6 回以上</u>	A	15 回実施した。従来の取組に加えて、地域協働学習等学習機会が大幅に増えた。	地域協働学習をさらに充実させる等今後とも継続して交流学习の機会を設けていきたい。
	<u>望ましい公共性と豊かなコミュニケーション能力の育成を目指します。</u>	<u>特別指導発生件数：年間 3 件未満</u>	C	数件の問題行動が発生したが、全体的に落ち着いた学校生活を送ることができている。	規則正しい生活、健康で安全な自立生活に繋がることを理解させる。掃除、挨拶、返事を通して、社会に貢献できる生徒を育てる。
		<u>交通事故発生件数：年間 0 件</u>	C	交通事故が 7 件発生した。今年度、自転車交通マナー向上対策事業に取り組み、施錠率の向	交通事故防止に向けた取組を継続して行う。ヘルメットの着用、登下校時のマナーの向上に取り組み、交通安全に対する意識を高めるとともに、命

				上や車道左側通行の推進を行い、ほぼ100%の実施率と大幅に改善した。	を守る態度を育てる。
		出前授業、出前講座（高大連携）：年間6回以上、 遠隔授業：年間6回以上	C	夏季休業中に愛媛大学出張講義（講師5名）及び川高先輩塾（大学教授6名）を実施した。12月の愛媛大学訪問では大学内で模擬授業を実施した。また愛媛大学の深堀先生、内村先生を招いて紙産業の講義を行った。春季休業中には研究室訪問を予定しており、高大の連携がとれている。	愛媛大学とは引き続き連携をとり、出前授業、出前講座を積極的に行っていきたい。 川之江先輩塾は、総合的な探究の時間を生かせば、さらなる活用が期待できる。校内での運用をどのような組織で行っていくか検討していく必要がある

(A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった)